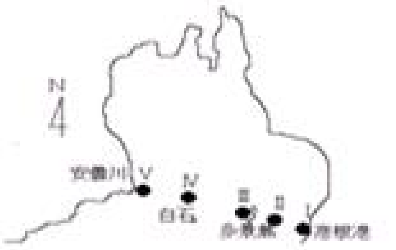
琵琶湖定点定期観測結果速報（令和7年8月）

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日　令和7年8月18日

調査地点　彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
（ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
　滋賀県水産試験場地先における測定値）



調査地点図

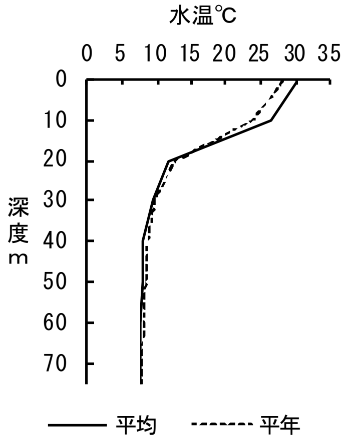
調査結果
平均値　・・・　5地点の平均値
平年値　・・・　透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値
DO(溶存酸素濃度)は2015年～2024年(平成27年～令和6年)の同時期調査の平均値

１．透明度

8月平均値　8.3m　　　平年値　6.5m

２．湖水温（℃）

深度(m)	8月平均値	平年値	平年差 (平均値-平年値)
0.5	30.0	28.2	+1.8
10	26.3	23.8	+2.5
20	11.6	12.7	-1.1
30	9.3	9.7	-0.4
40	8.2	8.7	-0.5
50	7.9	8.3	-0.4
60	7.8	8.0	-0.2
75	7.6	7.8	-0.2



３．湖岸水温（℃）

月(旬)	平均値	平年値	平年差 (平均値-平年値)
7月下旬	29.5	26.5	+3.0
8月上旬	30.2	27.8	+2.4
8月中旬	29.7	27.8	+1.9

４．プランクトン沈殿量(ml/m^3)

水層 (m)	8月平均値	平年値	平年差（平均値-平年値）
0～10	5.8	12.0	-6.2
10～20	3.8	5.4	-1.6
20～40	0.9	1.3	-0.4
40～75	0.3	0.6	-0.3

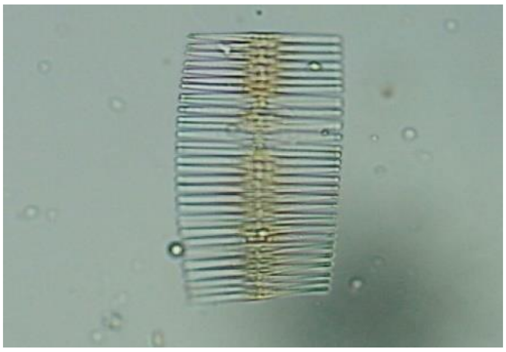
（プランクトンネットNXX14使用）

５．表層のプランクトン優占種

〇プランクトンネットNXX14による採集（5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点）

植物プランクトンについては、両地点とも*Fragilaria crotonensis*（オビケイソウ：珪藻）が細胞数で最も多く認められた。

動物プランクトンについては、全地点でカイアシ類のノープリウス期幼生が個体数で最も多く認められた。



Fragilaria crotonensis

ノープリウス期幼生

６．ＤＯ（溶存酸素濃度：mg/L）多項目水質計による測定値。

深度(m)	8月平均値		平年値		平年差	
	ＤＯ	(酸素飽和度%)	ＤＯ	(酸素飽和度%)	ＤＯ	(酸素飽和度%)
0.5	8.1	108.1	7.9	101.7	0.2	(+6.4)
10	8.3	104.7	8.2	97.7	0.1	(+7.0)
20	8.6	79.5	7.6	72.8	1.0	(+6.7)
30	9.4	81.8	8.9	79.1	0.5	(+2.7)
75	6.1	50.9	5.0	43.8	1.1	(+7.1)